



第6回 再生医療 EXPO 大阪

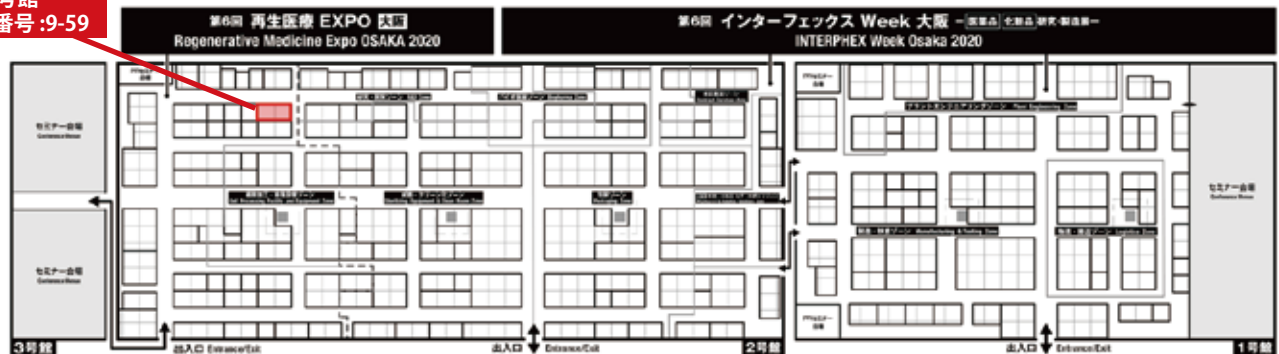
研究・治療・創薬のための製品・サービスが出展

会期: 2020年2月26日[水]~28日[金]

会場: インテックス大阪

YOKOGAWA 

YOKOGAWAブース
2号館
ブース番号:9-59



ご来場お待ちしております

【お問い合わせ先】 横河電機株式会社 ライフサイエンス事業本部 バイオソリューションセンター
Web site <https://www.yokogawa.co.jp/solutions/products-platforms/life-science/>
E-mail CSU@CSV.yokogawa.co.jp TEL (076) 258-7028 FAX (076) 258-7029



【展示製品】

- ◆共焦点顕微鏡システム
 - ◇超解像共焦点スキャナユニット CSU-W1 SoRa
 - ◇CSU-W1 照明均一化オプション Uniformizer
- ◆HCAトータルソリューション CellVoyagerシステム
 - ◇共焦点定量イメージサイトメーター CQ1
 - ◇ハイコンテンツ解析ソフトウェア CellPathfinder
- ◆1細胞解析ソリューション Single Cellome (参考出展)

【企業セミナー】

- ◇日時 2月28日(金) 13:30 - 14:00
- ◇演題
【1細胞解析ソリューション Single Cellome のご紹介】
- ◇内容
観察・画像解析をしながら、ターゲットとする細胞を1細胞単位で採取した後に、1細胞質量分析・1細胞遺伝子解析等を行うことで複合解析するソリューション、先端がナノレベルのチップを使用した1細胞解析新技術についてご紹介します。

Follow us!



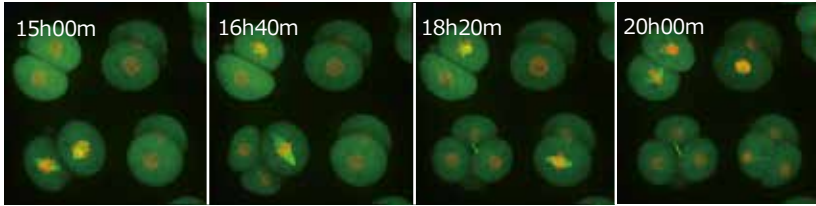
製品ラインナップは
裏面をご覧ください

バイオイメージング製品ラインナップ

お手持ちの顕微鏡を共焦点へアップグレード
- ライブセルイメージングのデファクトスタンダード -

共焦点スキャナユニット

CSU



- ✓ 独自のスキャン方式で、低退色・低光毒性に高速スキャン
- ✓ 各社顕微鏡・周辺機器にアドオンできるコンポーネントタイプ
- ✓ 超解像から高速仕様まで、実験に応じたカスタマイズが可能

販売実績 3000 台以上!

■ マウス初期胚のタイムラプス観察

48時間3D多色タイムラプス(MIP表示)の一部を抜粋 画像ご提供:近畿大学 生物理工学部 遺伝子工学科 山縣一夫先生

高視野・高画質モデル

CSU-W1



- ・広視野 (Wide) ・高画質 (Clear)
- ・切替機構をすべてを電動化したハイエンドモデル

超解像 + 共焦点モデル

CSU-W1 SoRa



- ・光学限界を超えた約 120nm^{*}の XY 分解能
- ・超解像ライブセルイメージングに最適
- ・1 台で超解像画像と共焦点画像を取得

※デコンボリューションも含めた参考値

高速モデル

CSU-X1



- ・世界最速フルフレーム 2,000fps
- ・ベーシックからハイエンドまで、予算・用途に合わせてモデルを選択可
- ・ロングセラーのスタンダードモデル

新オプション対応

CSU-W1 照明均一化オプション

CSU-W1 Uniformizer

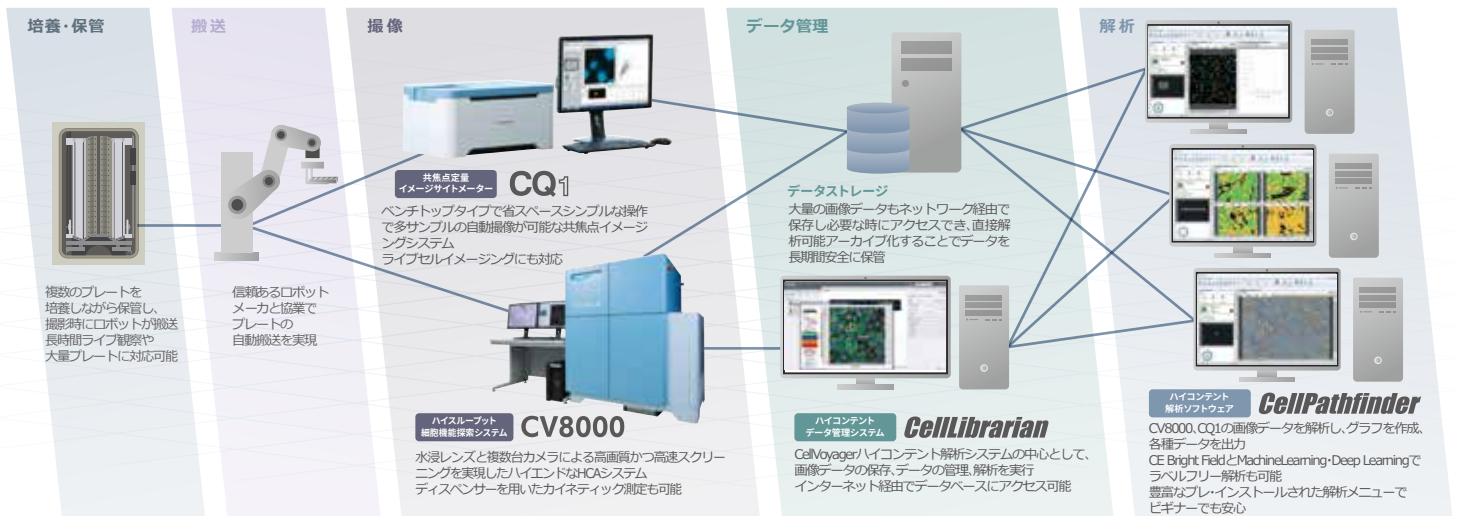
- CSU-W1 に最も適した照明均一化オプション
- 広い視野全体を均一・効率的に照明
- 現地アップグレードに対応
- 超解像 (SoRa ディスク) と併用可能

ライブセルイメージングにおける課題を解決します!

- できるだけ手軽に共焦点顕微鏡を導入したい
- 画像撮影時の光毒性・退色で、ライブセルイメージングがうまくいかない
- 蛍光顕微鏡の解像度には不満、より鮮明な画像が欲しい
- 共焦点だけでなく、1 台で超解像や TIRF、微分干渉などの様々な観察方法を行いたい

観えると解る 分かる とみえる
- 可視化と解析を誰もが手軽に -

ハイコンテンツアナリシス
トータルソリューション **Cell Voyager**



ライブセルの4D・ラベルフリー画像解析における課題を解決します!

- できるだけ手軽に共焦点撮影や 3D 画像解析・スクリーニングを始めたい
- スフェロイドや細胞シートなどの厚みのあるサンプルを用いて 3D 解析を行いたい
- プレートリダのようにウェル単位ではなく、個々の細胞の変化を観察したい
- 条件を変えた多数の細胞実験を自動で行いたい
- 多くの化合物の細胞に及ぼす影響を調査する実験がしたい

新オプション対応

CellPathfinder ディープラーニング

画像からパターンを認識し特定することで、認識精度が飛躍的に向上しました

- 解析精度の向上
特に明視野画像での認識精度が向上
- 画像解析のための専門知識が不要
- 解析プロトコル作成の手間を削減
- 画像全体でのフェノタイプ解析が可能